



## TAJタージ「茅ヶ崎市災害合同訓練」参加報告 9月27日

日時:平成24年8月26日 13時～ 場所:文教大学 湘南キャンパス

参加者:平野努、久我直美、日下景子、田中華代子、金子(5名)

【参加訓練】合同防災訓練において、有事のボランティアセンター立ち上げのシュミレーション。

【訓練内容】3班に分れ、①ボランティアの受付け、②マッチング、③現場への送り出しを担当

### ①「ボランティアの受付け」

—受け付け名簿の記載方法の説明。—車の運転、特殊技能の有無のヒアリング

—マッチング班に引き継ぐための名前票(今回は付箋)渡し

### ②「マッチング」

—全部で5か所からボランティアの依頼が来ているとの想定で、依頼内容により男女振り分け、各現場の班を構成。

### ③「送り出し」

—各班リーダーの選定。—現場の状況説明。—注意事項説明。—現場地図渡し送り出し

### 【ボランティアの受付け】

1. 茅ヶ崎市ではボランティア受け入れに際して、非加入の方の「ボランティア保険料」を負担する。としていた点。(個人から徴収した際につりの小銭を用意するのが困難との理由)
2. 受付時に特殊技能のヒアリングをしたが、その日に必要な[具体的な特殊技能を受付前に貼り出しておく](#)方がボランティア本人に伝わりやすいのでは？
3. [名前票記載方法\(カタカナ？漢字？\)等](#)、事前に細かいことを[規定](#)しておいた方が個人による差異がない。

### 【マッチング】

1. 「1 人目」 私は茅ヶ崎における災害発生時に、ボランティアをやりたいと希望されてきた方々をどこのお宅に派遣するかをきめる(マッチング)という係りを体験しました。
2. 予め、派遣を希望するお宅の場所や家族構成、やって頂きたい内容などを記入した用紙が手元にあり、その内容に沿って割り当てていきました。今回は訓練ということで、簡単な部屋の片付けや「話し相手」というのもありましたが、実際の災害発生直後には体力のいる瓦礫処理などの肉体労働が圧倒的に必要となると思われるのに対して、実際に来られる方々の[年齢や男女比が本当にニーズにあったかたち](#)で、[スムーズにできるのか](#)との不安が残りました。
3. しかし[その場の雰囲気や段取りなどイメージが掴めて、とてもよい経験](#)ができました。
4. 「2 人目」 いつもはマッチングされる側だったのでいざその立場になると難しいことがよくわかりました。
5. まずマッチングの案件を見て、男女の比率や、体力のいる作業かなど理解してマッチング





を行わなければと思い、マッチングした後もこの配置でよかったのか、と不安に感じることもありました。

6. マッチングする側のコミュニケーションも必要で、複数の窓口があると、各案件の人数の把握しつつマッチングをしていかななくてはならないと思います。なので、窓口が多ければ多いほどマッチングをスムーズに運ぶ為に工夫が必要かと思います。

#### 「送り出し」

1. 災害ボランティアさんに活動の手続きと注意事項と心構えを示す文書を読み上げました。文章の内容は優れていて、特に「心構え」の部分は普段から WEB のどこかにおいておくといいのではないかなと思うくらいです。
2. 書き言葉・話し言葉でいうと、書き言葉なのでしょうが、読み上げる都合上、文書を数人で大きな声で何度も読み上げ、読んだ具合、聴いた具合で、発音・発声しにくいところはいまわしを工夫して推敲していくと、読みやすく、聴きやすくなると思います。
3. 文章の分量が多く、読み上げに時間がかかり、ボランティア役の方がだんだんと聞き疲れていくのが気になりました。
4. 手続きの部分と、注意事項の部分と、心構えの部分とを分けて読み上げれば、ボランティア役の方が聴きやすかったかもしれません。
5. 印刷の字が細かく、老眼鏡を持参しなかったので、読むのがつらかったです。12ポイント以上がありがたいです。
6. 災害ボランティアさんがつける名札シールはもう少し大きなもの (タテはガムテープの幅かそれ以上、ヨコはタテの2倍以上) がよいと思います。
7. 同じく名札シールには茅ヶ崎市災害ボランティアセンターの名称を印刷しておくなど、市から派遣されていることを災害ボランティアさんが強く自覚できるようにすること、他の組織から派遣されて、または個人で活動している人とは区別できるようにしておくとうよいと思います。専用のビブスを用意されるのであれば、そちらの方が効果的かもしれません。

#### 全体の感想:

1. 実際はもっと緊張した違った雰囲気となるのでしょうか、シミュレーションによって現場の様子を体験できよい機会でした。
2. このような機会を定期的に得られるとまたより大勢の市民で体験できるとよいと思います。
3. 大勢の人が騒然と動いているので、誰がどのような立場なのか、お互いにまた市内市外からくるボランティアさんがわかるように、胸と背中に「茅ヶ崎市職員災害ボランティアセンター担当」など、所属と担当を大きく示すとよいと思います。
4. ひとたび被災となったときには、ボランティアさんの多くは初めてセンターにくるわけで、右も左もわからない状況でしょうから、「待機」「全体説明」「受付」「マッチング」「送り出し」の場所の配置図や大まかな手順を壁に大きく書き表示すると把握の助けになると思います。

